

お姉ちゃん+

R18

みだるとおんりい



怪盗紳士団

夏のあの日の事
今でも鮮明に
覚えてる

おばあちゃんの
家がある田舎

キラ

キラ

友達もいなく
時間を持て余して
いた

そんな少年に
優しく声を
かけてくれた

青空を背にした
女の子



キラキラと
輝いていて

目が離せな
かった

ドキ

ドキ

ドキ

あの時の俺には
世界一のアイドル

そう思えたんだ

親愛度10達成後

やはり莉波
お姉ちゃんは
トップアイドルの
才能がある

誰だここまで才能を
見いだせなかった
ヤツらは！

やはり俺じゃ
ないと！

あっ

プロデューサーくん

えっち

しよっか♡

ほんっ！

は!?

なっ！

アイドルは
冗談でもそんな
事を言っては…

？

んー

冗談じゃない
よ？

更にダメです！

うーん…



な…なんだ
この感覚

はっ…

記憶…？



わっ…

そっかそっか
照れてるんだね

前みたいに

たっ

きっ



あの時の
バス停の裏？

知らないぞ
この記憶

知らない？
いや…

これは
間違いなく
俺だ…

記憶に無い
俺？

あの時…
こんな事を

綺麗…だ

くっ

…ん？
胸…こんなに
大きかったか？

くっ
にゅん

これはもしや
違う世界の俺の
記憶…

知らない
記憶…

むぐぐ

らや…

違うな

ググ

ふにゅん



そうか…

今まで
無かっただけで
コレは俺だ



すでに深い仲
だったんだ

俺達は…
あの時すでに



俺の記憶！

そう…
これは
俺だ
どっちも



そう…
少なくとも
今…は…



と…
とにかくっ

そういう事は
ダメです

俺は
プロデューサー
なので



そっかさっかさ
分かったよ

ガ
シツ

なっ!

久しぶりだから
照れてるんだね



コレが…
アイドルの
腕力…

この細腕から
信じられない
力…

なっ…
なんだ!?



お姉ちゃんに
まかせて!

大丈夫♥

ふふふ





くわわわ

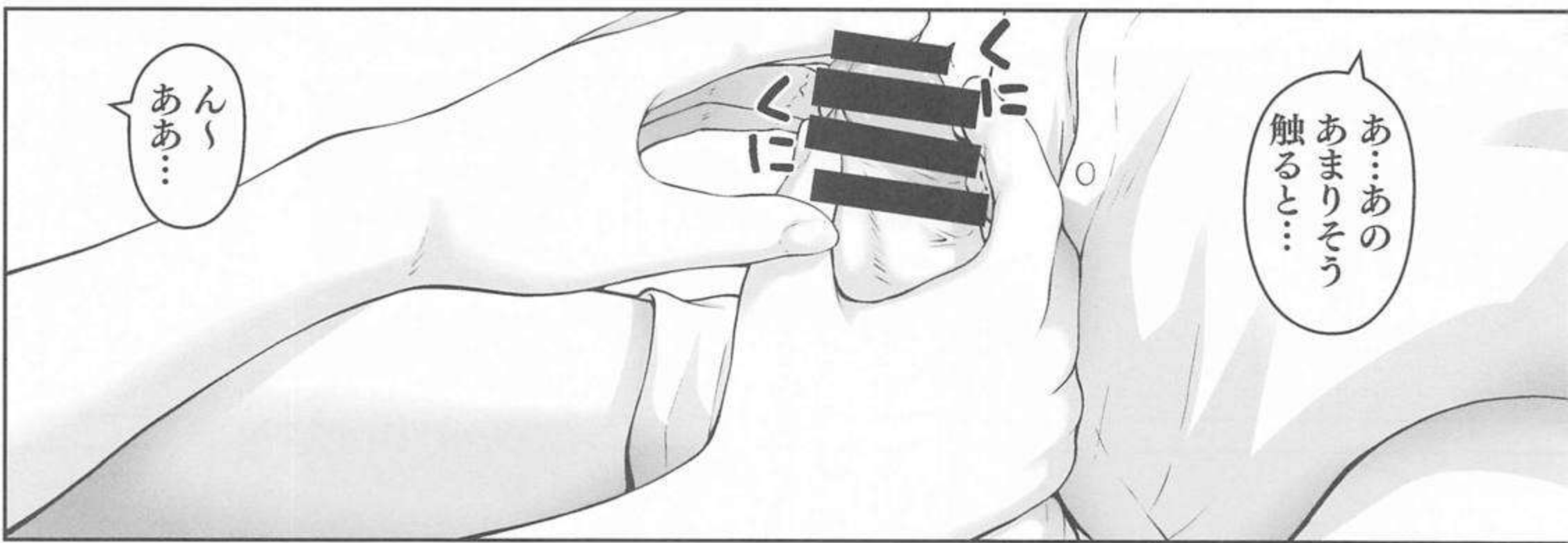
さ...
逆らえない...

コレが...
お姉ちゃん力...

元気だね

すり
すり

お姉ちゃん
嬉しいよ



あ...あの
あまりそう
触ると...

ん
あ...



あ



そっかさっか
このままじゃ
...だね

ゴメンね







ムフフ

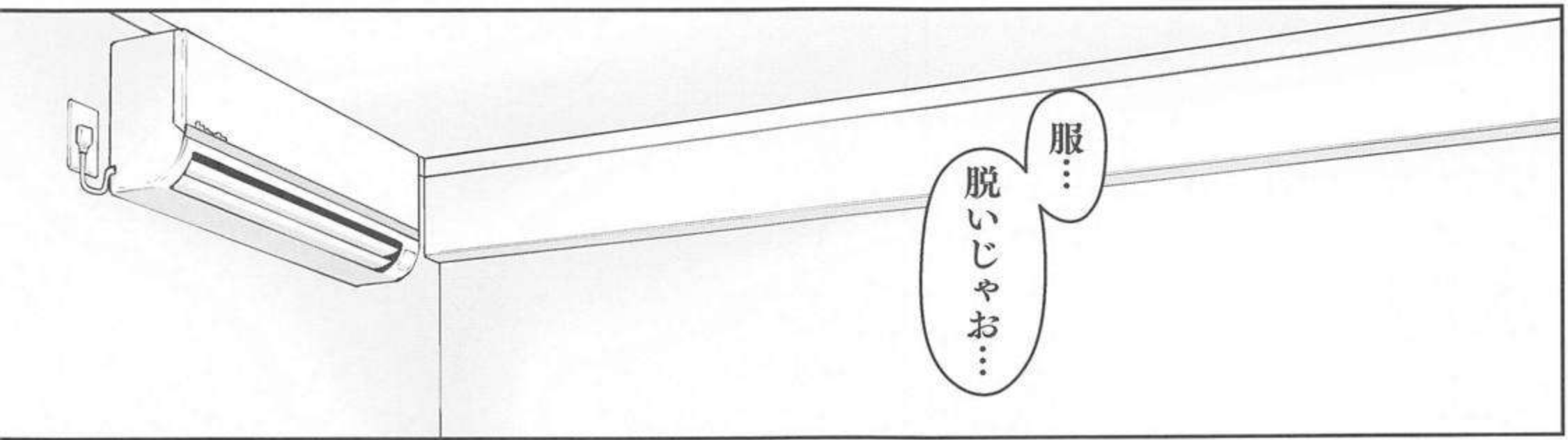
成長...楽しみだよ♡

して欲しい事も言わなくとも分かっている

莉波お姉ちゃんは...

ふんふん

ふんふん



服...
脱いじゃお...



ムフフ

うん...
涼しい...



ふんふん



おっぱいに顔埋めながらするの好きだよね

たぷん

は…はい…



じゃあしよっか

ふんふん♡

えっち♡

ちゅん…



いや…そのどうしたものかと…

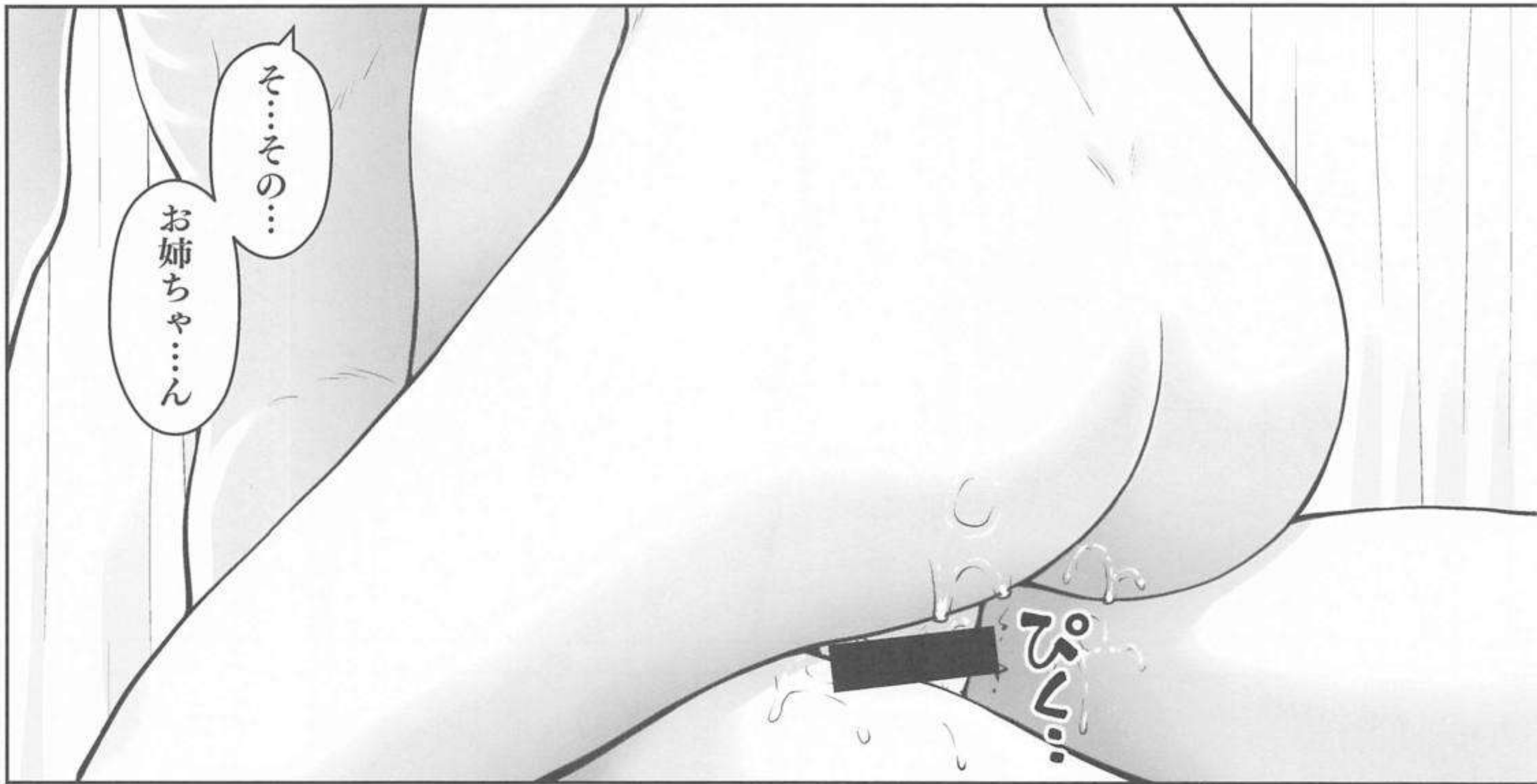
ああ…

ふんふん

ん？

ん？
どうしたの







じゃあ…一緒に

はあ…

気持ちよくなるわね♡

ぬちゅん

ちゅん



も…もう身体も…

おちんちんも…こんなに

大きく…なっちゃって

はあ

たっ

ぬちゅん

ずん

びる

びる

びる

完全に お姉ちゃんの ペースだ



びしょ

おは

んんん...

あ...

わ...
凄い...
びゅっびゅっ
って出てる

おは

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ



びしょ

おは

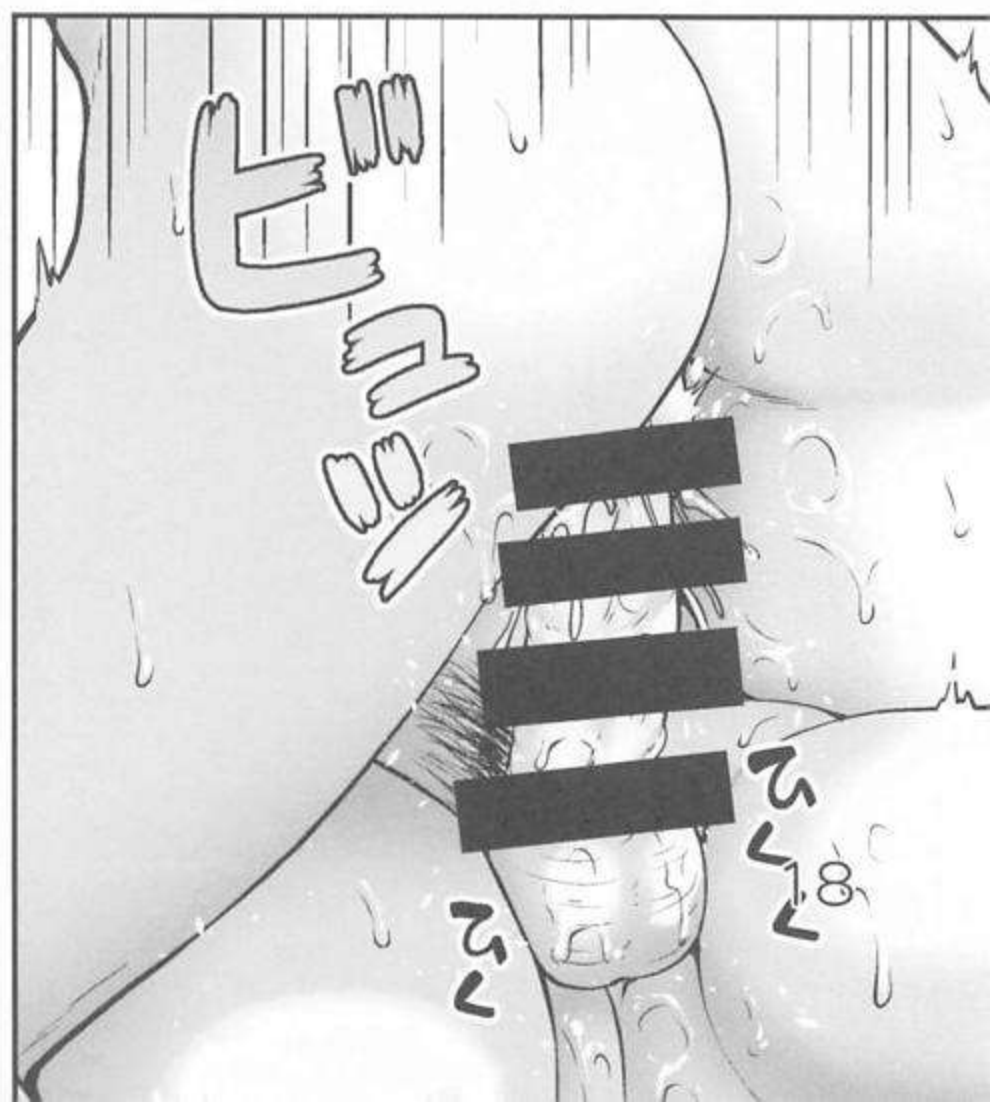
きみの...
あつ...い...よ

んん

びしょ

俺...もう...

びしょ



びしょ

びしょ

びしょ



お姉ちゃ...
ん!?

それぞれ

結局色々
してしまっただけ……

と……
とはいえ

俺のやるべき
事は変わらない

他の誰にも
任せられないから

俺が
莉波お姉ちゃんを

ふふっ

んん？

トップアイドルに
する！

あ……
もしかして……

したく
なっちゃった
かな？

ふふ～

ちっ……
違います

少なくとも
今は……

胸への愛撫は
もろくちやんぱ
見れるはずのもだつこ
(ナレハハハハハハハハハハ)

シチュエーションは
じつはなげさくしんぱ
なまはしんぱ

とびつておっぱいの
おっぱいもくわいの
ロマンチックな



あとがき

はじめまして、もしくは再びどうもです。

学マス、開始前からチェックしてて願書集めに行ったりしてたけどその時はそこそこ流行れば良いなあ…と思っていた。でもまさかの流行りで正直ビックリ。そんな訳で今描くならこっちだろう！とお姉ちゃん本です。

…と、事前にチェックはしてたものの詳細は分からず推しは迷ってました。思った以上にだいが変な…ではなく個性的面々が多い。その中で気になったのは年下のお姉ちゃんである莉波さん。

実際はちゃんと意味とそこまでの理由はあったのでコミュ見ればおかしいけど変とも言い切れない絶妙な設定。個人的に気に入ったのは幼馴染みである事。

自分は特にこの要素が大好きなのでお姉ちゃん担当になりました。なお、わりと言われているPは好意に気付かないボンクラではなくちゃんと理解してるしなんならガチ両思い説を考えてます。

学園3年生でアイドルとして後が無くほぼ諦めてる事から見てもアイドル活動は今しか出来ない事はハッキリしてます。恋人になって付き合っても後で確実にあの時アイドルやっていればと後悔すると思う。

だからこそPはお姉ちゃんが最も輝く方向&方法でプロデュースしてるのでは？と。他担当を見ても有能な事が多い学マスPがただ趣味全開なわけは無い。

それはそれとして公式でもそれぞれパラレルワールドな世界っぽいのはみ出しまくってしまった世界も見たいので描いてみました。ああ…お姉ちゃんと一緒に帰省したい…。

…と、そんなこんなな気分で作った莉波お姉ちゃん本、楽しんでいただけたら嬉しいです。

カイシンシ

奥付

お姉ちゃん+

発行：怪盗紳士団

著者：カイシンシ

発行日：2024.8.12

印刷所：ねこのしっぽ

E-Mail nadesune@gmail.com